

高校生との 意見交換会 懇談概要

さまざまな職業を学べる機会が欲しい

生徒 進路の判断材料になるのは、自分の意志と社会に対する知識だと私は考えています。学校で学べることは限りがあり、高校生が知っている職業はほんの一部。職業を知る機会が多くなれば、好きなことを仕事にして将来を充実させたいという夢も現実になると思います。進路と聞くと、中高生のイメージが強いですが、小学生と一緒に学ぶのが良いと思います。例えば、同じ職種の企業に興味を持つ人同士でグループを組み、意見交換をすれば、違った視点の考えを得られ、多世代であるからこそ身に付くコミュニケーション能力を養う場にもなると思うからです。職業紹介は、安曇野市で働いている方々をお願いすれば、地元で働くイメージが持ちやすくなり、人手不足や若手の求人情報などの情勢を知って

もらう機会にもなると思います。社会人と一緒に活動する機会はとても貴重なので、社会に出たときに必要なことを実体験を通じて教えていただきたいです。実現できれば、豊科高校の生徒としても積極的に関わりたいです。

教育委員会 市教育委員会は小学校・中学校を所管していますが、子どものうちから自分のことを良く理解する、どんなことに興味があり、何が得意だということを理解すること、また地域にどんな会社や仕事があるのかといったことを学ぶためのキャリア教育を進めています。高校生にとって進路は間近で大きな問題だと思います。市には優れた企業がたくさんあります。宇宙開発になくってはならない部品を作っているとか、田舎のまちでしている仕事が世界に通じています。小中学生も含めた提案ですが、大変頼もしく感じています。この度の提案では、どの部署でどんなことができるか話し合っただけで考えていただきたいです。

市 市内4校なり市外の高校生との交流ができればいいなという思いがあります。義務教育と高校教育との連携をどのようにするかということを教育委員会でも検討しています。各校で時間を取ることがで

きるかカリキュラムの調整も必要になると思います。できる限り本日いただいたテーマに沿って、できることから広げていきたいと考えています。



デジタル活用の可能性

生徒 他自治体等の位置情報（GPS）を活用した行政サービスを調べました。災害時にどこにいても避難所や危険個所が分かるサイト、高齢者や車のない人が場所を言わなくても送迎場所が分かるサービスなど、大変魅力的に感じました。

市 日進月歩で開発が進む情報技術を活用し、民間企業と連携しながら、市民生活をより良い方向に活用することが重要だと認識しています。市でも積極的に情報政策を進めていきたいと考えています。位置情報を活用したスマホアプリとしては、道路の損傷や修繕箇所をスマホから報告する「情報通報システムあづみの」、ヤフージャパンと連携し、災害情報や避難場所などを掲載する「防災速報」などもありますので、これらを基に、ご意見を生かしながら活用を進めていきたいと思っています。

道路や街灯について

生徒 通学路等で道幅が狭いと感じる箇所、街灯が暗いと感じる箇所があります。どのような過程で整備が進められるのでしょうか。改修は可能でしょうか。また、歩車分離式信号機での自転車の乗り方が人によって違うため、分かりにくく、危険を感じることがあります。

市 市内の道路は、国・県・市など所管する組織が違います。道路がどこの管理なのか分かりづらいと思うので、まずは市にお問い合わせいただければと思います。道路や街灯の整備は、市の場合、地元区長に要望をまとめていただいています。その後、職員がすべての現状を確認し、優先順位を付けながら調整を図ります。交差点での自転車の通行方法は、設置されている箇所によって通行方法が違い、ルールの徹底が難しい面があるのが現状です。基本的には降りて通行してもらうことが安全ですが、高校前の交差点は、生徒会の皆さんと一緒にルール周知の方法を考えられたらと思います。



高校生と語る 未来の安曇野

ふれあいミーティング in 豊科高校

昨年度の穂高商業高校、南安曇農業高校での開催に続き、市長と高校生が語る「ふれあいミーティング」を12月14日、豊科高校で開催しました。☎秘書広報課 ☎71・2400 ☎71・5000



長野県豊科高等学校

大正12年に豊科高等女学校として開校。令和5年には創立100周年を迎える。本年度は672名の生徒が在籍。安曇野市出身者は365名。大学進学から就職まで多様な進路が特徴。生徒個々のキャリア形成の方向性に沿った学習を深めることで、自ら考え自ら行動できる生徒を育成するとともに、卒業後も地域社会の一員として活躍できる生徒の育成を目指している。



対話でつながる

市 長が市民や地元の高中生と直接対話をし、まちづくりを共に考える「市民と市長のふれあいミーティング」を豊科高校で開催しました。市からは市長、教育長、担当部長らが参加。高校からは生徒会役員ら10人余が参加しました。さまざまな職業を学べるキャリア教育やデジタル技術の推進（DX）、道路や街灯の整備について意見を交換しました。

地域の資産とつな

保坂美代子校長は、「高校生にとって政治や地域のことは遠いものではない。18歳になったら選挙権があり、地域の課題や問題について考えることは重要なこと」とあいさつ。宮澤市長は、「市では、少子高齢化・人口減少などの課題がある中で、住んでみたい・住み続けたいまちづくりに積極的に参加、関心を持っていただきたい。豊科高校が地域になくてはならない学校としてさらに発展してほしい」と、高校の地域資産としての重要性を話しました。